

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 20 年 1 月 24 日 (2008.1.24)

【公表番号】特表 2007-530622(P2007-530622A)

【公表日】平成 19 年 11 月 1 日 (2007.11.1)

【年通号数】公開・登録公報 2007-042

【出願番号】特願 2007-505480(P2007-505480)

【国際特許分類】

**A 6 1 K 45/00 (2006.01)**

**A 6 1 K 31/13 (2006.01)**

**A 6 1 K 31/439 (2006.01)**

**A 6 1 K 31/4535 (2006.01)**

**A 6 1 P 27/16 (2006.01)**

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/13

A 6 1 K 31/439

A 6 1 K 31/4535

A 6 1 P 27/16

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 11 月 30 日 (2007.11.30)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

蝸牛の興奮性内耳神経毒性による人の耳鳴りを処置するための薬剤であって、  
アリルサイクロアルキラミン ( a r y l c y c l o a l k y l a m i n e ) 類を含み、  
NMDA レセプタが介在しておこる、人の聴覚神経の異常な活動を効果的に抑制または  
減少させることを特徴とする耳鳴りを処置するための薬剤。

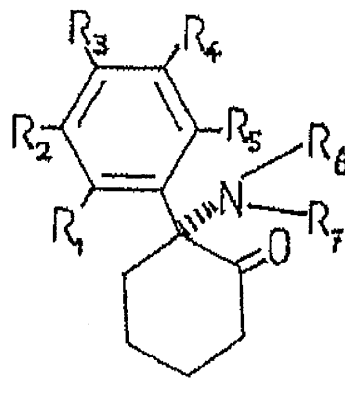
【請求項 2】

蝸牛の興奮性内耳神経毒性による人の耳鳴りを予防するための薬剤であって、  
アリルサイクロアルキラミン ( a r y l c y c l o a l k y l a m i n e ) 類を含み、  
NMDA レセプタが介在しておこる、人の聴覚神経の異常な活動を効果的に予防するこ  
とを特徴とする耳鳴りを予防するための薬剤。

【請求項 3】

上記アリルサイクロアルキラミン ( a r y l c y c l o a l k y l a m i n e ) 類が、  
下記構造式 I

## 【化 1】



を有しているものであり、 $R_1, R_2, R_3, R_4$ , および  $R_5$  は  $H, Cl, F, I, CH_3, CH_2CH_3, NH_2, OH$ , または  $COOH$  から独立に選択され、 $R_6$  および  $R_7$  は  $H, CH_3, CH_2CH_3, OH, Cl, F$ , または  $I$  から独立に選択されることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。

## 【請求項 4】

上記アリルサイクロアルキラミン (aryl cycloalkylamine) 類が、ケタミン (ketamine) であることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。

## 【請求項 5】

上記の蝸牛の興奮性内耳神経毒性が、音響による外傷性障害、老人性難聴、虚血、血液の無酸素症 (anoxia)、一つまたは複数の内耳神経毒性の薬物療法による処置、または急性難聴、からなる群によってひき起こされることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。

## 【請求項 6】

ラウンド・ウインドウ・メンブラン (round window membrane) またはオーバル・ウインドウ・メンブラン (oval window membrane) を通じて、内耳に対して局所的に投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。

## 【請求項 7】

侵襲性の薬剤輸送手段 (drug delivery technique) によって、内耳に対して局所的に投与されることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。

## 【請求項 8】

上記蝸牛の興奮性内耳神経毒性が急性であることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。

## 【請求項 9】

上記蝸牛の興奮性内耳神経毒性が繰り返し起こることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。

## 【請求項 10】

上記蝸牛の興奮性内耳神経毒性が持続するまたは慢性であることを特徴とする請求項 1 に記載の耳鳴りを処置するための薬剤、又は請求項 2 に記載の耳鳴りを予防するための薬剤。